



【第33回リレーエッセイ】日本心理学会理事長 唐沢 かおり

日本脳科学会理事長 松崎 秀夫先生よりバトンを受け取りました。日本心理学会理事長を務めております唐沢かおりです。本稿では、日本心理学会についてご紹介させていただきます。

日本心理学会は1927年に創立され、わが国における心理学研究の発展を長年にわたり牽引してきた学術団体です。現在は公益社団法人として運営され、国内外の関連学会と連携しながら、心理学の発展とその社会的意義の確立に努めています。

本学会は、大学・研究機関に所属する研究者のみならず、教育、医療、産業、福祉など多様な領域の専門家によって構成されており、基礎から臨床・応用に至る広がりを持っています。このような多様性は、心理学が人間の心と行動を多面的に理解し、実社会における課題解決へとつなげる学問であることを示しています。年次大会や各種研究会、学術誌の刊行を通じて、基礎研究と実践的知見の双方が共有され、活発な議論と学術交流が行われています。

本学会の目的は、心理学に関する研究の進歩とその普及を図り、学術の発展と社会の福祉に寄与することにあります。厳密な方法論に支えられた「こころ」の探究は、人間理解の基盤を成すものであり、本学会の中核をなす活動です。一方で、社会課題解決や臨床の現場を含む応用領域においては、こうした基礎的知見を踏まえつつ、人々のこころの健康や社会的課題に直接向き合う実践が展開されています。本学会は、基礎と応用の相互補完的な関係を重視し、その往還を通じて心理学全体の発展を図っています。

また、学会活動の一環として、一般向け広報誌「心理学ワールド」の刊行やウェブを通じた情報発信などを行い、心理学の成果を広く社会に伝える取り組みを進めています。心理学的知見をわかりやすく発信することは、公益社団法人としての重要な責務であり、社会との接点を広げるうえでも欠かせない活動です。

近年、心理学は神経科学や情報科学など隣接分野との連携を深めつつ、新たな展開を見せています。同時に、研究の再現性や倫理の確保といった課題にも真摯に取り組む必要があります。本学会は、学術的信頼性の確保と社会的責任の遂行を両立させるべく、研究の質の向上と適切な情報発信に努めています。

今後は、多岐にわたる心理学の、各領域における研究の一層の深化を図るとともに、その成果を社会に還元し、心理学の知見を通じて人々の生活の質の向上と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。また、日本脳科学関連学会連合の一員として、学際的連携を強化し、その発展にも寄与していく所存です。

今後とも日本心理学会をよろしくごお願い申し上げます。

次回からリレーエッセイは2周目に入ります。2周目の第1回は日本神経内分泌学会の理事長 大塚文男先生にバトンタッチされます。

【産学連携諮問委員会からのご案内:第14回 TOBIRA 研究交流フォーラムについて】

産学連携諮問委員会副委員長 池田 和隆

日本脳科学関連学会連合(脳科連)産学連携諮問委員会では、脳科学研究の社会実装を推進するため、産学連携や異分野融合を重視した活動を進めております。今期の2年間は、7名の新委員を含む35名の委員が活動を開始しており、尾崎 紀夫名古屋大学特任教授が委員長、萩原 一平応用脳科学コンソーシアム事務局長と池田 和隆が副委員長に選出されております。委員会活動の一環として、このたび脳科連の後援および産学連携諮問委員会との共催により、「第14回 TOBIRA 研究交流フォーラム」が2026年7月17日(金)に御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにて開催されます。

○第14回 TOBIRA 研究交流フォーラム [第14回研究交流フォーラム - TOBIRA](#)

TOBIRA(東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合)は、東京都医学総合研究所、東京都健康長寿医療センター、東京都立大学、早稲田大学、東京農工大学と企業が参画する産学官連携コンソーシアムであり、バイオマーカー研究や次世代医療の社会実装を推進しています。本年5月のTOBIRA理事会では、東京都健康長寿医療センター名誉理事長の鳥羽研二先生が新理事長に就任され、久保田直行先生、本田雅敬先生、池田和隆が副理事長に就任し、新体制での活動が始動しております。

○TOBIRA(東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合) <https://tobira.tokyo/>

本年度フォーラムのメインテーマは、「脳の“状態”を指標化する — 次世代医療に向けた脳科学と産学連携 —」です。

招待講演では、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター長であり脳科連代表を務める岡野栄之先生に、「幹細胞を用いた中枢神経系の再生医療と創薬研究について」をご講演いただく予定です。本講演では、神経再生研究を基盤とした脳機能評価と次世代医療への展望についてご紹介いただきます。

また、特別講演 I は産学連携諮問委員会との共催として企画されており、ワーキンググループ(WG)4の各タスクフォース(TF)から、精神科領域における Decentralized Clinical Trial (DCT) を推進する住吉太幹先生(TF1)、創薬研究を牽引してこられた大塚製薬の菊地哲朗先生(TF3)、デジタル・ブレイン/ブレインテック研究の第一人者である広島大学の武見充晃先生(TF2)にご講演いただきます。さらに、脳科連連携法人会員である株式会社ツムラによる特別講演 III も予定されております。

加えて、東京都医学総合研究所の原田 高幸先生、早稲田大学の井上 貴文先生らによる基調講演など、脳神経科学に関連する多彩なプログラムを通じて、基礎研究から臨床応用、社会実装までを横断的に議論する場となる予定です。

脳科連としても、産学連携諮問委員会や各WG・TF活動を通じて、脳科学研究の実装と新たな連携創出をさらに推進してまいります。関係各位におかれましては、ぜひ本フォーラムへのご参加・ご支援をご検討いただければ幸いです。事前登録されなかった場合は参加費 3,000 円となりますが、2026 年 7 月 3 日(金)までに以下よりご登録いただくと無料でご参加いただけます。

○第 14 回 TOBIRA 研究交流フォーラム参加登録フォーム

[TOBIRA 第14回研究交流フォーラム参加登録 - TOBIRA](#)

脳科学研究の社会実装に向けた産学連携の新たな展開を共有する機会として、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【NEURO2026 ランチョンセミナー開催のご案内】

日本脳科学関連学会連合として NEURO2026 でランチョンセミナーを行うことになりましたのでお知らせいたします。

タイトル:「脳オルガノイド、AI 統合研究を目指して」

概要:脳の情報処理原理を理解し、それを医療・工学・人工知能へと展開することは、現代神経科学に残された最も大きな課題の一つです。本ミニシンポジウムでは、脳オルガノイド、AI・数理科学との統合研究を軸に、次世代神経科学の新たな方向性を議論します。

日時:2026 年 8 月 1 日(土) 12:00~12:50

会場:第 13 会場(神戸国際展示場 2F 展示室 B 150 席)

○プログラム

座長/司会 岡野栄之(日本脳科学関連学会連合代表 慶應義塾大学再生医療リサーチセンター)

講演 1「ホログラフィック顕微鏡を用いた多細胞計測と操作」 和氣弘明(生理学研究所)

講演 2「脳オルガノイドで今できること」 今泉研人(スタンフォード大学医学部)

パネルディスカッション:予定登壇者は、2 人の演者と他 2 名(林 朗子(RIKEN CBS)、池内与志穂(東大))

※申込の詳細については後日広報いたします。

【一般社団法人 応用脳科学コンソーシアム年次総会記念フォーラムのお知らせ】

開催日時:2026 年 6 月 3 日(水) 16:00-18:00

形式:対面、オンライン(ハイブリッド形式)

会場:JA 共済ビルカンファレンスホール(千代田区平河町)

<https://www.can-neuro.org/2026annualforum/>

※日本脳科学関連学会連合は後援をしておりますので会場参加が可能です。

【活動報告 4 月~5 月】

- ・第 35 回評議員会(メール審議 3 月 26 日~4 月 8 日)
- ・第 7 回産学連携諮問委員会(5 月 6 日プレ会議 5 月 10 日本会議)
- ・第 36 回評議員会(メール審議 5 月 22 日~5 月 28 日)

【事務局だより(主に会員学会事務局向け)】

- ・評議員の変更がございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。
- ・メールマガジン内容へのご意見やお問い合わせは、貴学会の事務局経由でお願いします。